

津木地区寄合会の運営、特産品開発、情報発信、イベントを共に考える

私たちLIP広川町は、津木地区寄合会の方々と協力し、実際に地域を訪れるだけでなく、和歌山県内でのイベントに出店したり、自分たちで企画イベントを開催したりするなどの活動を行っています。またそれだけでなく、津木地区についての勉強会を開いたり、津木地区の魅力やInstagramを活用して発信したりするなど私たちの活動のうちの一つです。

2014年度から始まった津木地区での活動も、今年度で5年目となりました。今年度も昨年度に引き続き、様々なことに挑戦していきたいと思います。

そんな私たちLIP広川町の、昨年度の活動の一部を紹介します。



・ 稲むらの火祭りへの参加

稲むらの火祭りには昨年度初めて参加しました。稲むらの火祭りとは、江戸時代に発生した安南南海地震による津波から逃れるために、暗闇の中で稲むらに火をつけ村人を高台に導き、人々を救った濱口梧陵の活躍を再現した祭です。広川町にゆかりのある人物である濱口梧陵の活躍を思い描きながら松明行列に参加し、広川の町をみんなで楽しく歩きました。

行事が始まる前にはみんなで広川町を散策し、いい思い出を作ることができました。松明を持って歩く経験は他ではできない、LIP広川町ならではの体験です！



・ ポポロハスマーケットへの出店

LIP広川町の活動のひとつに、津木地区寄合会の方々が開発した商品を販売するというものがあります。広川町や和歌山市のマーケットに出店することが多いのですが、その一つがぶらくり丁で開催されるポポロハスマーケット。和歌山市のみなさんに津木地区の景色や特産品を知っていただくチャンスです。

当日は商品をお客さんに販売するだけでなく、通りすがりの方にも見てもらえるように大きなパネルを作成し展示しました。パネルを見て立ち止まってくださる方もおり、広川町津木地区をアピールできたのではないかなと思います。



・ 合宿

3月には合宿を行いました。この1泊2日の合宿では、私たちの活動場所である津木地区について実際に体験をしながら学ぶこと、地域の方々との交流を深めること、また年度末ということで2018年度の活動の振り返りという3本柱をメインとしました。

熊野古道をみんなで歩いたり、薬草やジャバラといった特産品の栽培の様子を見学させて頂くことで、行かなければ分からない、新たな地域の魅力を発見することが出来ました。

そして何と言っても、地域の方々と一つの鍋を囲みながら地域の未来について語れるそんな場があること、その瞬間そのものが大きな学びであると実感しました。

